

夏季のキク直挿し栽培における畑地かんがい用水を活用した 活着促進及び葉焼け防止

守部晶¹⁾・坂元政寛²⁾・梅木佳良²⁾・○中村剛

(¹⁾ 宮崎中部普及セ・²⁾ 元宮崎総農試畑作・宮崎総農試畑作)

【目的】

夏季高温期におけるキクの直挿し定植後の畑地かんがい用水活用による活着促進、及び葉焼け防止について検討した。

【材料および方法】

品種は「神馬」を用いた。定植直前にオキシベロン200倍溶液に30秒間浸漬処理し、2001年7月25日に中期展張ハウス内に直挿しした。

試験は①1日3回かん水区（7時から5時間間隔で4分間）、②1日6回かん水区（7時から2時間間隔で2分間）、③1日11回かん水区（7時から1時間間隔で1分間）、④対照区（有孔ポリフィルムべたがけ：6cm×12cm間隔に直径2cmの穴を開け、開孔率を4.4%に調整。かん水は直挿し直後1回手かん水）を設置した。

処理期間は定植後1週間とし、遮光カーテン（遮光率80%）をハウス内に展張した。

かん水に供試したノズルは株元かん水用ノズルで使用圧約1kg/cm²、水量0.58口/分/孔。散水直径を約120cmに調整して使用した。

かん水による冷却効果を確認するために、処理期間中の生長点付近における最高温度を調査した。また、直挿し8日後に葉焼け程度、根長を調査し、切り花収穫時（直挿し105日後）に切り花長、葉数、花首長、花首径、85cm調整重を調査した。

【結果および考察】

1) 生長点付近の最高気温の推移（図1）

7月26日から8月1日までの計測期間中、11回区、3回区、6回区、対照区の順で最高気温が低かった。

2) 生育および葉焼け程度（表1）

対照区で葉焼けが見られたが、かん水区では何れの区においても葉焼けは見られなかった。

最長根長はかん水区の方が長かったが有意差は無かった。

3) 切り花形質（表2）

切り花長・葉数・花首長・花首径においてかん水区と対照区の間には差は見られなかった。

以上のことから、かん水区は生長点付近の気温

が下げられ葉焼けも見られず、活着も対照区の有孔ポリフィルムべたがけと同等以上であり、また切り花形質も差が見られなかった。畑地かんがい用水は直挿し直後の活着促進及び葉焼け防止に有効に活用できるが、かん水回数については今後更に検討を要する。

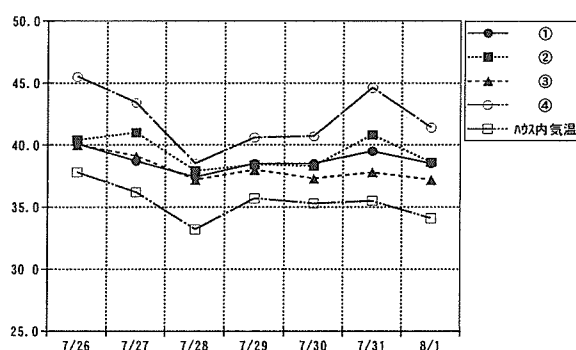


図1 生長点付近の最高温度の推移

表1 直挿8日後の生育

	葉焼け程度 ^{注1)}	最長根長 (cm: 平均値±SD)	活着率 (%)
①	0	2.5 ± 0.9	100
②	0	2.2 ± 1.0	100
③	0	3.1 ± 1.1	100
④	0.3	1.6 ± 0.7	100

注1) 葉焼け程度 (n = 30)

0: 無し、1: 葉先のみ、2: 30%未満、3: 30%以上

表2 切り花形質

切花長 (cm)	葉数 (枚)	花首長 (cm)	花首径 (mm)	85cm調整重 (g)
①102.9 ± 5.6	45.7 ± 3.7	4.1 ± 0.6	5.6 ± 0.5	84.7
②100.1 ± 4.7	46.1 ± 4.1	3.8 ± 0.6	5.6 ± 0.5	85.4
③101.6 ± 5.0	44.9 ± 3.7	3.9 ± 0.7	5.6 ± 0.4	84.6
④104.1 ± 5.2	46.8 ± 3.8	3.3 ± 0.6	6.0 ± 0.5	87.4

* 表中の数字は平均値 ± SD (n = 30)